

里地里山保全再生モデル事業（神奈川県秦野地域） 試行事業に向けた意見交換会（全体）議事概要

平成17年5月12日（水）14:00～16:00

会場：秦野市 議会第一会議室

議事

- (1) 前回懇談会の状況について
 - 1) 第2回懇談会における議事概要
 - 2) 地域戦略素案イメージ図の説明
- (2) 懇談会を踏まえた、今後の試行事業の取組について
 - 1) 地域戦略素案イメージ図の実現に向けた取組状況
 - 2) 試行事業における取組案

意見交換

- (1) 試行事業に関する意見交換
- (2) 今後のスケジュールについて

参集者

地域活動団体

- まほろば里山林を育む会
- NPO法人国際援助団体 アイウエオサークル
- NPO法人自然塾丹沢ドン会
- 荒廃農地解消ボランティアの会
- 渋沢ふれあいの里管理運営協議会
- 秦野野鳥の会
- 湘南地域連合（欠）
- まちづくり委員会
- 東地区安心してすめるまちづくり運動実施委員会
- 北地区みんなで住みよいふるさとづくり運動推進委員会
- 西地区住みよい町づくり運動推進委員会
- 上地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
- 農林業関係者
- 秦野市農業協同組合
- 秦野市森林組合（欠）
- 秦野市農業委員会

秦野市役所

- 環境農政部
- 環境農政部 環境保全課、環境衛生課、農産課、森林づくり課
- 都市経済部公園みどり課
- 秦野市教育委員会 教育総務部、生涯学習部
- 神奈川県関係
- 環境農政部 緑政課、農地課、林務課（欠）
- 湘南地域県政総合センター農地課
- 自然環境保全センター

各省庁

- 環境省 自然環境局自然環境計画課
- 環境省 南関東地区自然保護事務所公園保護科
- 農林水産省 農村振興局整備部農村整備課
- 林野庁 森林整備部計画課
- 国土交通省 都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室
- 事務局等
- 国立公園協会
- 里地ネットワーク

登録制度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドの提供には地主の協力が必要。今までの経験からすると難しいが、しかし、このグループだったら任せて良いという信頼を得る仕事をすることによって逆に協力を得られるようになった。信頼を得る仕事が重要。市の予算化、補助や税制の特例などを設けてもらえば、もっと目に見えた形で進む。地主に対する御礼が必要ではないか。ボランティアも得るものがなければしない。野鳥をみるとか、木をきってみたいとか、メリットがあってボランティアをする。同様に地権者にもメリットが必要。 	まほろば里山林を育む会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の2点が今後のクリアすべき点だと思う。フィールド登録をするにあたり、地権者の信頼、意識改革は時間をかけていく必要がある。法制度、特に農地法との絡みを検討していく必要がある。 	神奈川県環境農政部農地課
<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールド登録の条件として「手伝って欲しいフィールドがある」と書いてあるけれど、どうやって土地所有者にそうしてもらえかがポイントだろうと思う。東地区では県の里山支援モデル事業を行っているので、そういう役割で当事業部を使ってもらえばと思う。 	環境農政部農地課
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の提案の登録制度について。実際登録した人がいかに里山で活動して頂くかという点を検討する必要があると思う。 	農林水産省 関東農政局整備部農村整備課

人材	
<ul style="list-style-type: none"> 遠くからも活動参加者が来るが、自然に親しめるといっただけでなく椎茸をもらえる等、具体的なメリットがあるからくる。知恵があれば人は集まる。一番の問題は人材。リーダーと知恵があれば人は集まる。 	NPO法人アイウエオサークル
<ul style="list-style-type: none"> やりたいことはあるがリーダーがいない。お金がない。この二つがあればやりたいことができる。この人をリーダーにするとか、将来につながる具体目標をきめて事業を行いたい。事業をして山が綺麗になっても、その後維持していく人がいないのは困る。人を特定してNPOをつくる、リーダーをつくる、その人にはちゃんと人件費を渡す、というのが一番重要。人材とお金、その二つが、一番わたしたちも苦労しているところ。その二つがあれば進めていくことができると思う。 	NPO法人アイウエオサークル

多様な主体との協働	
<ul style="list-style-type: none"> 今回の提案（研修制度、登録制度、情報発信の提案）は都市型だが、地元は自営型なのでその接点が難しい。自営型と都市型のパワーの接点が必要。そのためには、秦野市全体レベルのNPO、第3セクターを作る必要があるのではないかと。 	上地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> 都市のボランティア活動などは、都市側からどういうふう地域に入っていく環境整備するかというような、都市から地域へのアプローチが多い。地元の方に受け入れてもらうのが大変で、最初は協力してもらってても、相手にしてもらえなくなったとか言う話も聞く。地元と都市部住民と一緒にどうやっていくかということがもうひとつの課題だと思う。 	林野庁 森林整備部計画課
<ul style="list-style-type: none"> 結局は、担い手が大事。当会では「自然塾」で都市の人たちをどう集めるか、団塊の世代も含めてNPOの力になる人を集める、そのための仕組みづくりができればよい。そのための情報発信に協力したい。 	NPO法人自然塾丹沢ドン会
<ul style="list-style-type: none"> 信頼できる人間関係が必要とあるが、地権者との関係だけでなく、活動場所の周辺住民との関係も重要。当会では高齢者が管理できなくなった1600haの畑をかりてブルーベリーを植え、管理する計画しているが、その畑の隣が新興住宅地で、朝早く行くと必ず「こんな早くから作業しないで」といわれる。一軒一軒、断りに行き、了承いただいた。地権者だけでなくフィールドの周辺の住民との信頼関係をつくることも必要。 	荒廃農地解消市民の会
<ul style="list-style-type: none"> 西地区では渋沢小と椎野さんが取り組んでいるのでお願いしながら、協力していきたい。分科会の中でご指導をお願いしながら推進していきたいと思う。 	西地区住みよい町づくり運動推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> 農業サイドからは、里山は効率が悪い・経済性が悪いところで今まで手立てがなかった。里山保全は県が主体になってやるわけにはいかない。住民や市民が主体となり、持続性、継続性をもたせることが一番の課題。 	湘南地域県政総合センター農地課

経済性、地元や農家へのメリット	
<ul style="list-style-type: none"> 里山の問題は遊びではだめ。継続性、公益性が大事。研修すれば事がたりのではなく、地域おこしが必要だと思う。経済性が伴わないといけない。今、地区では竹林の整備をしている。しないとゴミが捨てられる。すればタケノコもいいものが出る。経済効果、地産地消を進めていくことが重要。 	上地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> 秦野の中で里地里山とされるところには人口の2割くらいが住んでいるが、比較的不便な所。そこでは人が年々減って里山の荒廃に繋がっている。そこに住んできた人たちは、農地を都市の人に荒らされるなど、今までずっと被害者だった。それで不満に感じ後ろ向きになっているのが現状。農家の人たちがもっと誇りを持てるような考え方にしないと心を開かないのではないかなと思う。人がきてもまたゴミ捨て場になってまた嫌な思いをする。そういうことがすべて取り払われてようやく里地里山保全ができる。 	秦野市農業協同組合
<ul style="list-style-type: none"> 我々はあくまでも農業者や農地を守るという立場でやっている。農家の方に話を聞くと、農地や山林は都市住民にとっての遊び場としても捉えられ、ゴミ捨て場になるなど、農作業がしにくくなるという不安をもっている。環境のことという、これを誰がするのかと疑問だ。このような提案を受けただけの力が今の農家にはほとんどない。やはりお金になるようなこと、農家に還元でき利益を与えるようなことでないと動いてもらえないと思う。それに向けて議論を重ねていきたい。 	農業委員会

学校教育・生涯学習との連携	
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の教育という視点では、将来を担う子どもなので生涯教育として捉えていきたい。子ども達に秦野のこともっと知ってほしくても、実際に住んでいるとかえって秦野のことがわからない。教育研究所で冊子も出しているが、小さいうちから秦野のよさを伝えていきたい。秦野のいいところ、里地里山のいいところを受け止めながら、将来は里地里山を保全整備していく人になってほしい。子どもたちが生活づくりをしていけるようなことにしないと、子どもたちが里地里山をよくしよう、守ろう、ということにならない。経済性なども含めていけば、将来里地里山を守ろうという子どもが育つだろう。 	教育研究所
管理手法	
<ul style="list-style-type: none"> 個人的に西田原で里山づくりをしている方に協力している。秦野カントリー周辺の落ち葉をつんでおいて、カブトムシを子どもにわけて、堆肥にしたものを田畑に利用している。山林では、落ち葉かき、下刈をしている。そこに入る道路ができるといいなと思う。荒廃農地の整備にしても、トラクターが入るような道路が必要。 	東地区安心してすめるまちづくり運動実施委員会
鳥獣害	
<ul style="list-style-type: none"> 去年の検討資料などを見た。自分は北地区の菩提の生産森林組合に入っているが、鳥獣被害をまずなんとかしてもらわないと、人に来てといっても来てもらえないと思う。鹿の対策として、県で柵を張ってくれているが、すでに里に住んでいる鹿が荒らしている。山手の農家は作物を作ってもだめと諦めてしまう。鹿に伴って山ヒルが多く出ている。国をあげてやってもらう必要がある。山ヒルは5月から10月まで。滝ノ沢の保存会を自治体関係でやっているが、その観光地でもヒルに食われるため人の入りが少なくなった。資料2には初めに取り組む項目に色がついているが、まず、鳥獣、ヒル対策など、もとを絶って頂きたい。 	北地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
事業支援	
<ul style="list-style-type: none"> 農水省として現時点で支援できるのは、農村振興局地域振興課所管の「元気な地域づくり交付金」を活用してもらおうと良いかもしれない。 	農林水産省 農村振興局整備部農村整備課
<ul style="list-style-type: none"> 農村整備のハード面を担当しているので、ハードで支援が必要なら対応したい。 	農林水産省 関東農政局整備部農村整備課
進め方	
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりという立場できているので、この提案を自治会にどれくらいアピールしていいのかわからない。私の立場で、地権者にどう呼びかければいいのか。待てばいいのか、もう動かなければならないのか。もう少し地域に対するアピールの仕方を示してほしい。 	上地区みんなで住みよいまちづくり運動推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> 市、県、国の方で、市民のみなさんの要望にこたえられる方法としてどのような方法があるのかを話し合う分科会的なものを開かせて頂きたいと考えている。 	秦野市環境農政部